

ほのやん

67 ウォーキング



薩摩郷句 兼題「眠び」
 午前様え眠ぶしたまらん酔くれ客
 (唱) 逆か筈どんじや 効つ目も無客
 諸木 小春
 ひん眠ぶつラストシーンぬ見損ねつ
 (唱) ビデオを観れち 嬉しか誤算
 満石 江吟
 メル友と夜通て遊じよつ眠び授業
 (唱) 晩なギラギラ 目が冴えつ
 植村 昭子
 眠び運転い何度かハツち中央線
 (唱) 対向車どが 来れば大忙しけ
 諸木 美舟
 眠びなつたふつとか欠伸び飛つくだ蠅
 (唱) 運の悪い蠅じやち 口の悪い友達
 高辻 満天

大崎短歌会
 予定せる京都の旅をキャンセルす震災思えば
 その気になれず
 横瀬浜 裸足で歩くま昼どき釣人霞みてふと
 古代人
 ただただに贅を極むる世の中に被災の人の強
 くたくまし
 「海なんぞ無え方が良え!」被災者の悲痛な
 叫び胸を突き刺す
 日だまりの屋根の一ヶ所雀らのおしやべり続
 く笑みて聞きおり
 大和てるみ
 馬場みさ子
 行騰 泰子

大崎俳句会
 道草やカバン下して春うらら
 櫻島山巖深く春浅し
 石垣のすきまを借りて野のすみれ
 春の風茶園にゆらく扇風機
 被災地の暖かき日を願ひけり
 フルートの鎮魂の曲春寒し
 被災の子声高らかに卒業歌
 二見 淑子
 春田 昌子
 内田ちどり
 中崎 ハナエ
 桑原 正樹
 溝口 稔
 三浦 倫子



今月の表紙

大空を泳ぐ鯉のぼり

5月5日の端午の節句に合わせて町内のあちこちに鯉のぼりが揚がり、男児の出生を祝いました。都市部で見ることがないこの風景も田舎暮らしの特権です。

人権啓発シリーズ⑮ ~平成23年度 啓発活動重点目標~

